

コロナ新時代の食と農の思想

藤原 辰史
(京都大学人文科学研究所)



熊本慶誠高校でのキッチントークにて

自己紹介

■1995 島根県立横田高校卒業

■1999 京都大学総合人間学部卒業

■2002 京都大学人間・環境学研究科中退

■2002 京都大学人文科学研究所助手

(2006-07ロベルト・ボッシュ医学史研究所 客員研究員

■2009 東京大学農学生命科学研究科講師

■2013 京都大学人文科学研究所准教授

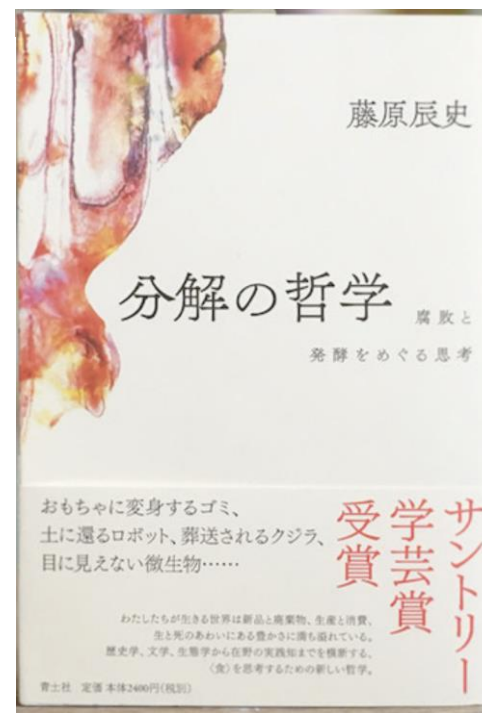
(2017-18 ハイデルベルク大学 カール・ヤスパーズ・センター 客員教授)

研究者ネットワーク

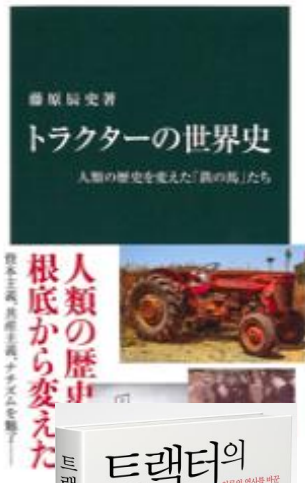
- ・独ハイデルベルク大学
- ・仏社会科学高等研究院
- ・東アジア環境史学会
- ・韓国全北大学校韓国科学文明学研究所
- ・ベルギーのルーヴェン大学
- ・ポーランド、クラクフ大学日本学科 など



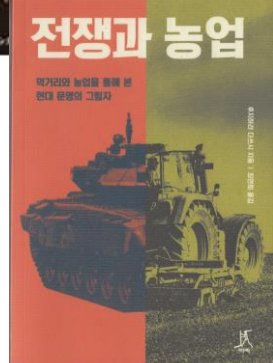
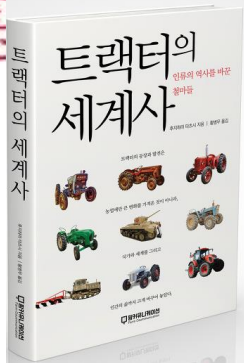
全州のコンナムルカップ



キーワード
食、農、
ナチズム、
テクノロジー
給食、飢餓
廃棄物、発酵



問題意識
現代史の深層
に沈む、飢え
への根源的な
恐怖について。





藤原辰史：パンデミックを生きる指針 ——歴史研究のアプローチ

最終更新: 5月26日

- 1 起こりうる事態を冷徹に考える
- 2 国に希望を託せるか
- 3 家庭に希望を託せるか
- 4 スペイン風邪と新型コロナウイルス
- 5 スペイン風邪の教訓
- 6 クリオの審判

1 起こりうる事態を冷徹に考える

人間という頭でっかちな動物は、目の前の輪郭のはっきりした危機よりも、遠くの輪郭のぼやけた希望にすがりたくなる癖がある。だから、自分はきっとウイルスに感染しない、自分はそれによって死なない、職場や学校は閉鎖しない、あの国の致死率はこの国ではありえない、と多くの人たちが楽観しがちである。私もまた、その傾向を持つ人間のひとりである。

甚大な危機に接して、ほぼすべての人びとが思考の限界に突き当たる。だから、楽観主義に



ジャイール・ボルソナロ大統領「熱帯雨林の破壊は嘘」

なぜ、日本はブラジルから五六万トン（2018年統計）
の大豆を輸入しているのか？

なぜ、大統領の虚偽が「地球の肺」を焼くのか？

日本のコロナ後の「危機」が私たちに試すテストは、経済活動がいつストップしても人間が生きることのできる社会が形成されているのかどうか。「地球社会」存立の危機に、**食と農の思想**をどこまでの覚悟と緊張感を持って紡ぐことができるのか。瀬戸際に立たされている。

- ◆海水面上昇→平地の農業の被害を想定できているか？
- ◆経済不況→貧困家庭の食を賄うことができるか？
- ◆大型地震→食糧の分散的保存ができているか？
- ◆富士山の噴火→周辺農村の被害を想定できているか？
- ◆毎年夏の巨大台風、水害と洪水→災害に強い食と農を考えているか？
- ◆鳥インフルエンザ（大規模畜産の問題）の蔓延→人間も家畜も健康な畜産への根源的転換のロードマップは描けているか？

- いつからこの国は、思想や信条を冷笑するような国になったのか？
- この国の農業政策に、50年耐えられる食と農の思想は存在するのか？
- 類まれな多様さを持つ小農列島が、世界農業をどうリードしていくか？

1 新型コロナウイルスの「抜き打ちテスト」が 露わにしたもの——これまでもの問題の露呈

1. **大規模自然破壊**（とそれに由来する**気候変動**）cf: プランテーションのための森林開発によるウイルス媒介動物の棲息空間の破壊。
2. **非正規雇用労働形態**の脆弱さ
3. **言葉**の破壊（例：詭弁に矛盾。「総合的、俯瞰的」）→喫緊の課題としての言葉（＝政治と人文学を担う者の生命）の信頼の回復
4. **人文学・文化**の軽視（政治と経済に、歴史と批判が希薄）→首都に国立の現代史博物館や空襲博物館がない。Cf: ベルリンの事例
5. **男性中心社会**の暴力性。コロナ後の日本の**女性**の自殺の増加（昨年同時期より187人増）、女性への**DV**、解雇の増大（内閣府男女共同参画局 調査9/30）。女性にしわ寄せが来る仕組みを根本から変えないといけないが、議員の女性蔑視発言があとを絶たない。
6. **都市と大企業一極集中**の脆弱さ。
7. 要するに、**新自由主義**の問題の露呈。脱新自由主義

2 世界的な現象としての**新自由主義**の限界

1970年代から80年代＝歴史の転換点。サッチャー、レーガン、中曽根の「民営化」「小さな政府」の流れ。農業保護への疑念。現在は水道も民営化に。

ウェンディ・ブラウン『いかにして民主主義は失われていくのか：新自由主義の見えざる攻撃』（みすず書房、2015）コロナ以前から壊れつつある**民主主義**。

□「**ホモ・ポリティクス**」（政治的人間）の代わりに、「**ホモ・エコノミクス**」（経済的人間）に誘導するような教育。

□「**人的資本**」を求める支配層。圧力を受ける教育現場と一般社会。

□学問が「時代錯誤で贅沢な道楽に過ぎないとみなされる」

□国家が経済を放任する自由主義ではなく、**経済が国家と国民を統治**する時代。（コロナで大打撃）

□日本の新自由主義

□菅義偉首相「**中小企業の再編**」（日本経済新聞2020/9/6）

□「福祉の**ベーシックインカム**一元化」（竹中平蔵氏）→**ベーシックフード？**

□「小さなもの」の「大きなもの」への再編。

→新自由主義というトレンドにのらない農業。

3 新自由主義による農業破壊の事例（イラク）

1. 2003-2011年、ブッシュ大統領のイラク戦争（泥沼）。第一次（第一次改造）小泉純一郎内閣（竹中平蔵は金融担当大臣兼経済財政政策担当大臣）のイラク戦争の支持、自衛隊の派遣。
2. 大規模破壊兵器が見つからなかった。小泉首相、国会で答弁不能に。

イラク戦争の反省なき日本が以下を推進するのか、反対するのか。

1. アブグレイブの国立種子貯蔵庫の破壊。2004年、モンサントやデュポンから遺伝子組み換えの種子を無料で配布。知的財産権を保護するために・・・「生活に絶望したシングルマザーにヘロインを差し出すようなもの」（ブラウン『いかにして民主主義は失われていくのか』みすず書房、2017年）インドの農薬自殺。
2. **ブレマー法**第81条。「特許、産業デザイン、秘密情報、集積回路および種苗法」で「保護品種作物の再利用」の禁止。それまで「97%のイラクの農家」が品種の栽培、多様化、貯蔵を自治的に行っていた。（ブラウン『いかにして民主主義は失われていくのか』）→イラク人が食べないパスタ小麦が。。
3. ナオミ・クライン『**ショック・ドクトリン**』。チリのアジェンデ政権をアメリカがCIAを使って弾圧以来、シカゴボーイズが経済改革を導入。新自由主義の手口として、**惨事便乗型資本主義**。

4 先駆者——多重な「弱目的性」

安藤昌益『統道真伝』（1752年頃）

江戸時代の秋田藩が生んだ稀有なエコロジカル民主主義者

「無上無下」「**無貴無賤**」「漏れ」「**直耕**」（土と内臓を耕す）

D. モントゴメリー＋A. ビクレー『土と内臓』（原典＝2015年）

微生物の力による、土壌と内臓の活性化。中央集権ではない**分散**モデルである「植物」の知恵。

⇔化学肥料と農薬による世界的な土壌劣化の危機。国際土壌年（2015）。大規模農業への警告。小規模農業の日本に追い風。が、国際連合総会で決議された「**小農の権利宣言**」（2018）に日本は棄権。エネルギー源としての生ゴミ。

A 植物の思想

マנקーゾ『植物は<知性>をもっている』

= 根のすさまじい知覚の束

コッチャ『植物の生の思想』

モントゴメリー+ビークレー『土と内臓』

藤原辰史『植物考』（春秋社web）

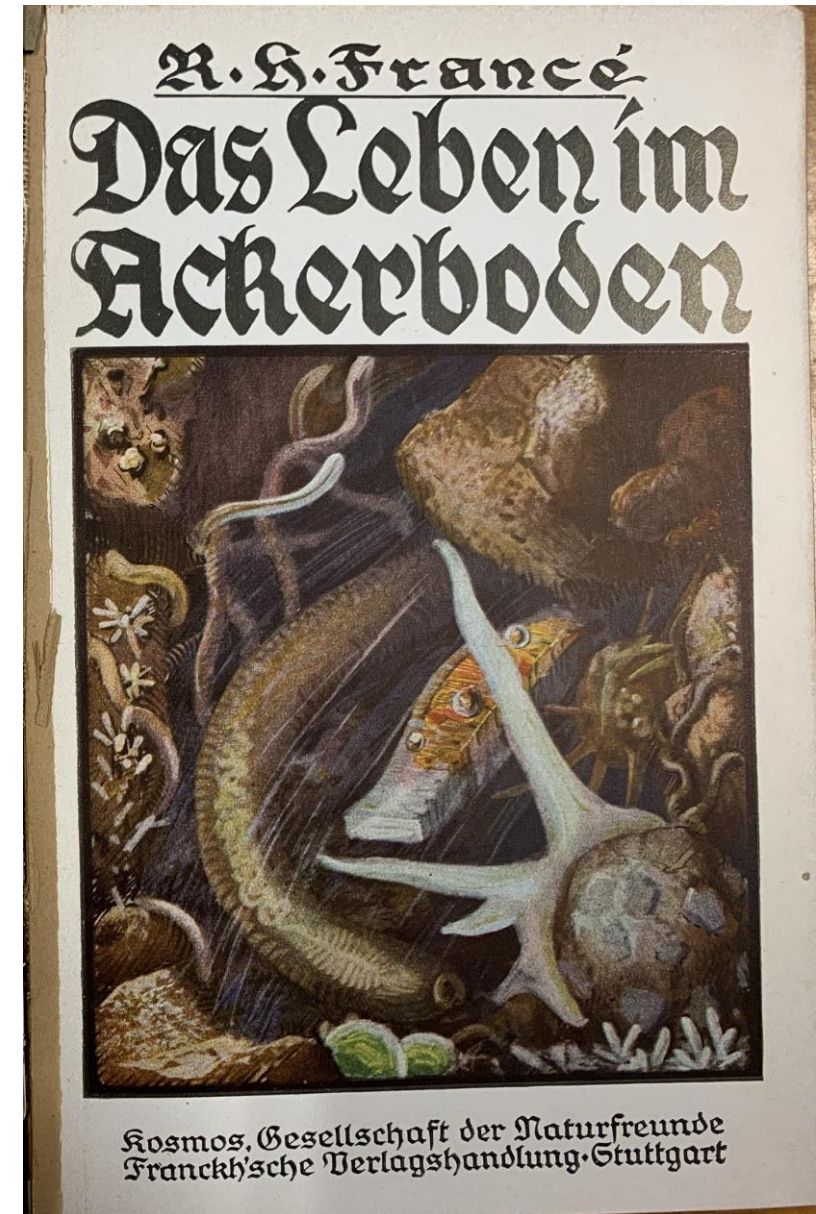
* 非中央集権のトップダウン = 分散による「根っこワークrootwork」

* 微生物をいかす社会（原発・火力からの脱却）

* 「濃い施し」と相利共生

* 株式会社型と協同組合理型

* 植物の「知性」を削ぐのではなく、それを活用した農業の推進



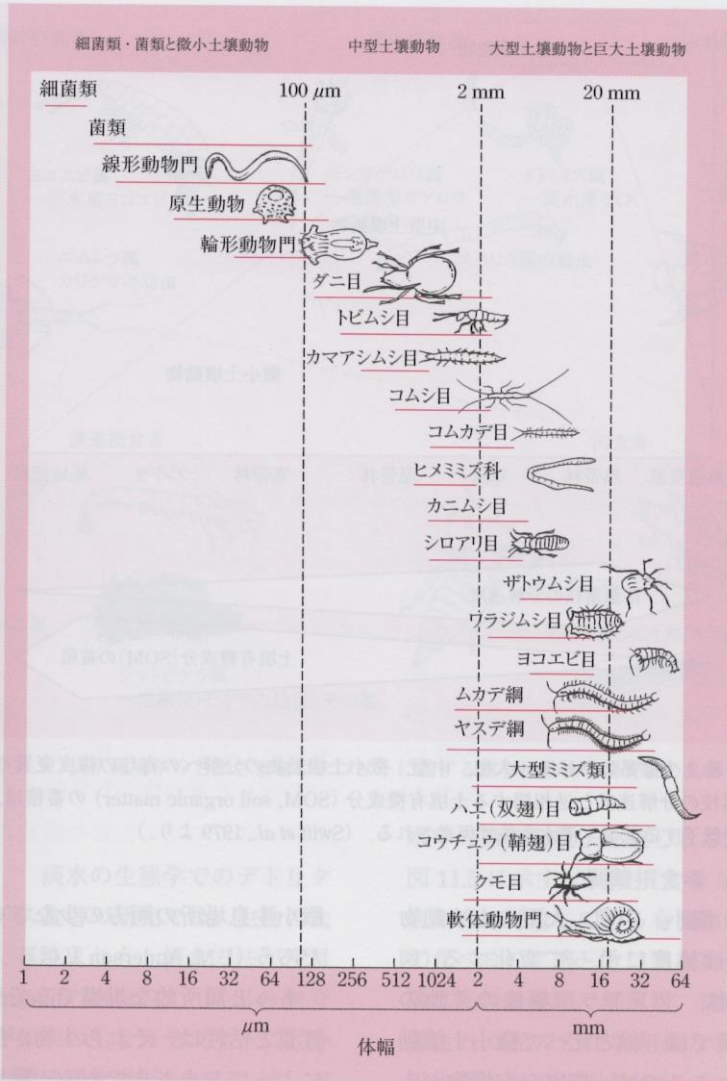


図 11.3 陸上の分解者の食物網に見られる、生物の体幅による大きさ別分類。ザトウムシ目、ムカデ綱、クモ目は完全に肉食である。(Swift *et al*, 1979 より。)

B 分解の思想

＊「生産」と「消費」の強制から脱した「分解」の根っこワーク。食の脱領域的思想（藤原『分解の哲学』2019）。

＊あるものから属性を洗いとって、別の属性の一要素にかえられるようにする現象への参加。

＊「**死の饗宴**」への参加。

＊モーターの高速回転に頼った燃料消費的運動ではなく、膨大な微生物の力を借りた分解運動を中心に据える。

＊分解しやすいものへの原料革命。

＊微生物の力を借りたエネルギー革命。

M. Begon, J. L. Harper, C. R. Townsend 『生態学』
堀道雄監訳、京都大学学術出版会、2013、p.431.

本のご紹介

ホーム > 本の一覧 > 縁食論

現在、キーワード... 検索

本の一覧

ミシマ社ニュース

書店さまへ

会社概要
メールマガジン登録
お問い合わせ
プライバシーポリシー

ちいさいミシマ社
しごとのわ
代表・ミシマのブログ

now printing...

縁食論
——孤食と共食のあいだ
藤原辰史（著）
定価 1,700円＋税

判型：四六判並製
頁数：192ページ
装丁：鈴木千佳子
発刊：2020年11月14日
ISBN：978-4-909394-43-9 C0095

取り扱い書店
一冊！取り所
POP情報はこちらから
いいね！0 ツイート

Webで購入

オンライン書店

内容

「縁食」とは、
コロナ禍が収まりを見せたあとに訪れる、
新たな社会の突破口——。

ベーシックインカムと食堂／食べ物に価値がなかったら／弁当と給食の暴力／死者との縁食／基本的に食べ物は「あまる」...

ひとりぼっちで食べる「孤食」とも、強いつながりを強制されて食べる「共食」とも異なる食のかたちとは？ 家族や会社などの共同体に制度崩壊が起こる今、社会が希求する「ゆるやかな並存の場」を示す挑戦作。



C 縁食の思想

- * 家族以外の人たちと緩やかに食べる場所
- * 新自由主義的ベーシックインカムや水道民営化への対抗。ベーシックサービスの一つとしての「食べもの」
- * あらゆる必需品（とくに食、住、水、空気）から商品の枠組みを外す運動。
- * 人間関係をデザインしない。人間たちが居やすい「場所」だけを設計する。
- * 子ども食堂と給食の発展

5 生態自治の思想 A + B + Cとして

・「コモン」（水、種子、食、農地、風景、土地、知識）の過剰な市場化・商品化（新自由主義）。

⇔「**ミュニシパリズムMunicipalism**」。「**自治**」の回復。

・**大学、学部の自治**：研究に没頭するゆとりを！

・「**アウトソーシング**」から「**インソーシング**」へ

・**バルセロナ・イン・コモン**。**新自由主義から折り返す**ヨーロッパの都市。フランスのグルノーブル市が水道民営化を拒否し、**100%有機農業給食**を始める。地産地消。

=世界各地で、「**自治体主義**」の登場（岸本聡子『水道、再び公営化！』集英社新書）

=政府は、自治体や組織の自治を、上からではなく**側面から**支える。

=それを支える学問と科学と知識のグローバリズム（地球でのシェア）、そして貿易相手の環境を破壊しない公平な交易

アメリカでも、中国でも、ロシアでもない、**非核生態自治連合**モデル。



参考文献にかえて
代官山蔦屋書店「「食べる」を読む」
藤原辰史選書フェアの様子

宮台由美子さん提供

